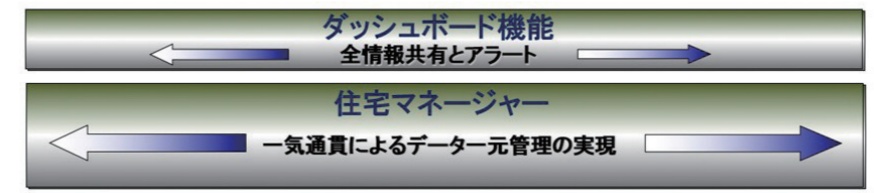


注目のDXツールを
徹底分析

KSK

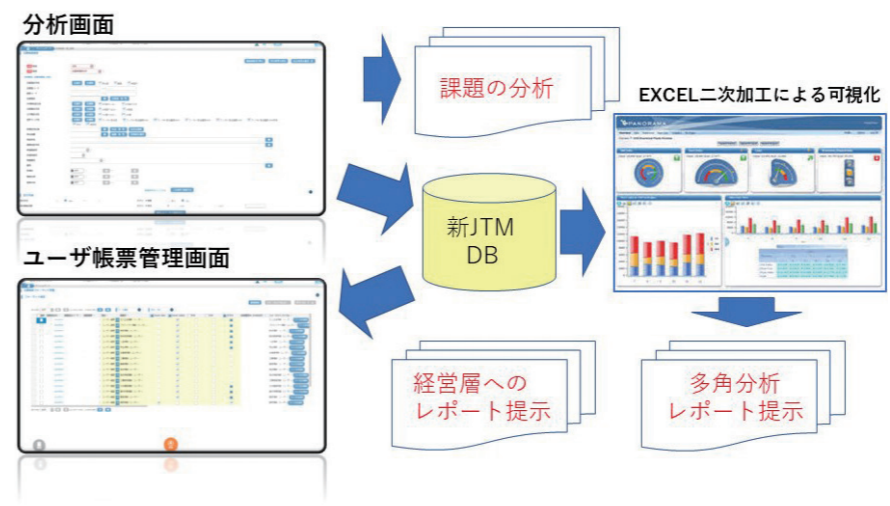
住宅マネージャー

- 会計連動(仕訳作成)
- スマートデバイス対応
- カスタム項目追加機能
- 汎用帳票機能
- アクセスログ管理
- 分析システム
- ドキュメント管理システム
- アフター管理システム
- 原価管理システム
- 入金管理システム
- 請求支払管理システム
- 工程管理システム
- 発注管理システム
- 顧客管理システム
- 契約管理システム
- 見積管理システム
- 見込客管理システム
- 物件工事管理システム
- プロジェクト管理システム
- 仕入土地管理システム



情報プラットフォームを構築し
すべての情報を一元管理

物件に関わる全情報の一元管理

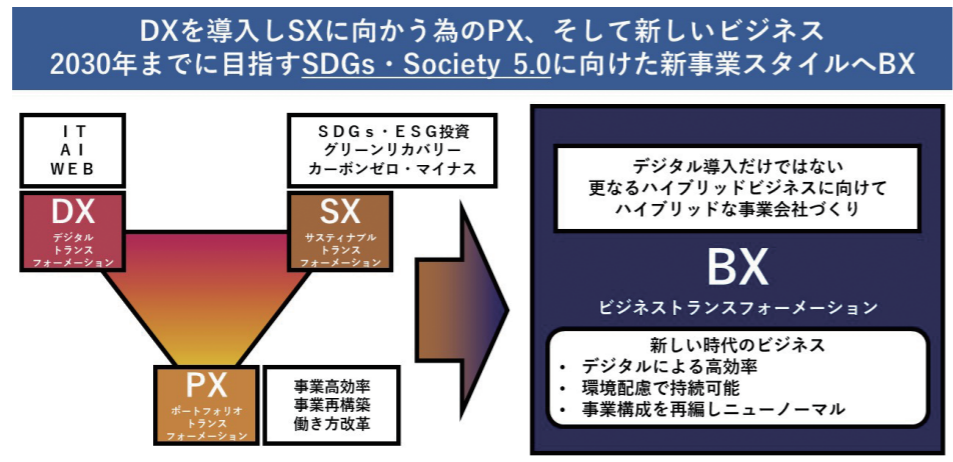


蓄積データの分析・活用による課題の顕在化で迅速・正確な対応

KSKの「住宅マネージャー」は、住宅・建設業向けの統合管理システム。2018年に全面リニューアルを行い、注文住宅、分譲住宅、リフォームなど、あらゆる事業形態に一つのシステムで対応できるようになった。一つのシステムで仕入れ土地管理から契約、発注、工程管理、原価管理、アフターサービスなど、あらゆる業務の情報を一元管理することができる。

住宅一棟に関する情報を、各部門が別々のシステムで管理するのはなく、「住宅マネージャー」上にすべての情報を集約する。

これは業務の効率化はもちろん、経営課題の解決に大きな力を発揮する。さまざまなデータを蓄積・分析することで、その



「住宅マネージャー」によるDX推進とSX・PXの三位一体でBXを目指す。

ユーザー帳票とは、事業者がこれまで運用してきたエクセル帳票と分析情報を、「住宅マネージャー」を使って出力する方法。ある程度の知識を持つスタッフであれば、独自で対応すること

電子受発注、他社連携など相次いで新提案を展開

KSKは、新・住宅マネージャーを核として、さらなるDXの提案を続けている。間もなくスタートする予定なのが「工事請負・不動産売買契約締結の電子化」だ。契約書の印紙代は不可避なコスト負担となっているが電子署名であればかなりのコストダウンが見込める。また、住宅事業者とさまざまな業者との受発注業務は、紙の発注書を書き、請書をもたつて、請求書を発行するケースがほとんどだ。これを電子化することで大きくペーパーレス化を進めることができ、大幅な事業効率化につながる。

KSKは他社連携でこの電子受発注のシステム開発を進めており、既に多くの住宅事業者へ提案を進めている。

この他社連携を積極的に進めているのもKSKならではの取り組みといえる。さまざまな理由から、これまで使用してきた個別のシステムを手放せないケースもある。そこでKSKでは、ユーザーから要望があればそのシステム提供会社と連携し、可能な限りユーザーの意向に沿う形で「住宅マネージャー」上でそのシステムの情報を取り扱えるようにし、情報を一元化できるようにしている。

DXを進めるうえで最大の課題はいかに運用を定着させるかであろう。「システムはあくまでツールであり、運用できる組織体制、人材育成などの改革なしには結果が伴わないケースが多い」。そこでKSKは、住宅事業専門のコンサルタントと連

企業が抱える課題を顕在化し、解決のための施策を迅速に取る。ことができ、業務の改善に結び付けることができるのである。

帳票をユーザー自らが作成可能
課題解決の大きな武器に

リニューアルによって大きく変わった「住宅マネージャー」だが、特筆されるのが「ユーザー帳票の強化」である。

株式会社 KSK

Team KSK

株式会社KSK

〒206-0804 東京都稲城市百村1625番地2
TEL 050-3803-8115
https://www.ksk.co.jp/